

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690600055		
法人名	有限会社北條ホスピタルサービス		
事業所名	グループホーム北斗		
所在地	徳島県三好市池田町マチ2526-10		
自己評価作成日	令和5年8月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和5年9月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・人生の先輩として、その人らしい生き方を支える介護を目指しています。
 ・入居者様の身体的レベルの低下もありグループホーム本来の共同生活介護はなかなかできにくくなっているが、新規入居者様など、まだ身体的に動ける方には朝の掃除や食器洗いなどをしていたり、活性化や生活するうえで自分が役に立っていることを感じて頂けるように支援しています。
 ・毎日のレクリエーション活動にも時間を取り、体を動かしたり、歌を歌ったりして楽しく過ごせるように支援しています。
 ・入居者様やご家族様にとって最も大きな安心感は、協力医療機関である病院に隣接しているという点です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市の中心地に位置している。敷地内には、同一法人の運営する協力医療機関や他サービス事業所が併設し、交流関係や24時間対応可能な医療体制を築いている。地域密着型サービス事業の意義を踏まえた理念を掲げ、日ごろの実践に繋げている。近隣の駅や商店街、公園等に散歩に出かける際には、地域住民と挨拶を交わすなど、地域との絆を大切にしている。新型コロナウイルス感染症の流行下においても、動画を見ながらの体操やレクリエーションを取り入れ、筋力強化やストレスのない生活につなげている。木造建築の建物内は、木の香りが漂い、清潔を保つなど、快適な空間づくりに取り組んでいる。利用者には、洗濯たみやモップ掃除等を任せるなど、職員は利用者のやりたいこと、できることを支援し、その人らしい生き方や力を発揮できる環境づくりに努めている。毎月、介護計画作成のための担当者会議や勉強会を行い、職員の資質や働く意欲の向上につなげる取り組みを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい生活の継続を目指すとともに、個人の尊厳を守り、家族や地域との絆を大切にするという3つの理念を常に確認しながら支援をしています。	事業所では、全職員で地域密着型サービスの意義や役割について検討し、作成した理念を掲げている。理念は、事業所内に掲示している。ミーティングで事業所の目指すサービスのあり方について話しあい、共有することで、実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症が蔓延したため、地域の行事は中止となり、入居者様の外出も控えていたため、交流する機会はほとんどなかった。	職員は、毎朝の散歩や日光浴の際に近隣住民と挨拶や会話をするなど、交流している。感染症対策を講じて、地域の認知症カフェに出かけたり、地域住民の訪問を受け入れたりして、交流を再開している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来訪者の制限をして、外出も控えていたため、認知症について知っていただく機会が持てなかった。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症予防の為、運営推進会議も書面開催でしていたので、意見交換もできにくかったが、今年度から対面での運営推進会議を再開したので今後は頂いた意見をサービスの向上に生かしていきたいと思っております。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。今年度から対面での会議を再開している。会議には、家族や地域住民、警察等の出席を得ている。出席者に事業所の取り組み等を伝え、意見等を得ている。把握した意見等は職員間で共有し、サービスの質の向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広域連合の職員には運営推進会議の時に事業所の運営の報告やサービスの取り組みを伝え、意見をいただいている。	管理者は、市担当窓口を訪問し、事業所の取り組みを伝える機会を設けている。社会福祉協議会や広域連合の窓口も訪問し、協働関係の構築に努めている。また、利用者とともに地域包括支援センターが開催する認知症カフェに参加するなど、顔なじみの関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の勉強会や研修をして理解を深めている。玄関は施錠はしていないが戸を開けたらアラームが鳴るようにし、安全を確保している。	事業所では、身体拘束廃止委員会や勉強会を開催し、拘束に関する職員間の理解を深めている。職員は、日ごろから、利用者の自由な暮らしの支援に向けて、協議検討している。スピーチロックについて、言葉かけの事例を掲示するなど、工夫している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内勉強会で虐待について学ぶ機会を設けている。職員にもストレスがたまらないように面接等で話を聞く機会を設けている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会において日常生活支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持っている。成年後見制度が必要な場合は相談に応じ、関係機関への橋渡しをしていきたい。職員が学ぶ機会を定期的に持ち、職員の理解を深めたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、事業所の特色や重要事項及び費用の内訳について説明を行い、納得して利用いただけるようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置し意見を気軽にいただけるよう配置している。また、ご家族様が面会に来た際は、現状説明や報告を行うようにしている。	事業所では、日ごろから利用者や家族等が意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに努めている。利用者個別の事業所だよりを送付し、様子を伝えたり、電話連絡をしたりして、意見を引き出し、運営面に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等において運営に関する職員の意見を聞くようにしている。そこで出た意見や提案を、運営に反映できるように努めている。	管理者は、日ごろから、職員が意見を伝えやすい関係づくりに努めている。毎月、職員会議を開催し、職員の意見や提案に耳を傾け、サービスの質の向上に活かしている。職員が意欲を持ち、働き続けることができる環境整備に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃からコミュニケーションを取り気軽に相談できる環境を作っている。休みの希望は勤務表作成前に提出してもらい、希望に沿って休めるようにしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2か月に1回事前に担当者を決めて、勉強会をしている。コロナウイルス感染症も少しずつ落ち着いてきたので、施設外の研修も受ける機会を検討している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に同業者と交流する機会は設けていない。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設入居前にご本人とご家族に面会している。ご本人やご家族の要望を十分に聞き信頼関係を築いている。御本人の思いを理解し安心していただくことによって、良好な関係づくりを心掛けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、ご家族からの話を十分にお伺いし、その思いを受け止め、サービス提供に反映させることで信頼関係を構築できるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者や家族が、今一番必要としている支援を検討している。必要であれば主治医にも面談して意見や情報を交換している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も一緒に日常生活を送ることで、暮らしを共にする意識を持ち、一緒にできることはしていただくようにして、信頼関係の構築に努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に入居者様を支えていくことについて、相談しながら介護するようになっている。日頃より連絡を密にして、家族と共に支えるという思いを共有できるよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症の蔓延以降、面会制限をしており家族以外とは会えなくなっている。	職員は、利用者や家族、関係者等とのかかわりのなかで、利用者の馴染みの関係を把握している。感染症(コロナ等)の流行下においても、電話でのやりとりを支援し、関係継続に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の工夫をしたり、職員が間に入って会話の橋渡しをしながら関わるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GHでの生活が困難になり、他の事業所へ移動する場合は、本人の状況やケアの工夫を伝えて大きく環境が変わらないように支援している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人やご家族に話を聞き、意向に沿ったケアプランを作成し、その人らしい生活ができる様に努めている。	職員は、日ごろの利用者とかかわりのなかで一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。利用者の表情や会話等から、本人本位に検討している。利用者がその人らしく暮らすことができるよう職員間で話しあい、支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご本人やご家族から自宅での暮らしぶりや様子を伺い、これまでの生活歴、好きだったこと、昔していたこと等をお聞きし把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りで入居者様の情報共有を行い、心身の状態や変化はその都度話し合い現状の把握をし、柔軟に対応できている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で情報を共有し、担当者会議で検討している。本人の意向を第一に考え、家族の意向を聞き、職員の意見も反映しながら現状に合った介護計画を作成している。	事業所では、利用者や家族の意向を把握し、その人らしい生活を支えるための介護計画を作成している。職員は、利用者の日ごろの様子を把握し、本人のしたいことや得意なことを継続できるように計画に取り入れている。定期的にモニタリングや見直しを行うとともに、利用者の心身状況の変化に応じた見直しを行い、現状に即した計画となるように取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った実践状況や、職員の気づきなどを個人記録に残し、申し送り時に情報を共有してケアに生かしている。また、個人記録をケアプランの見直しに利用している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望を聞きながら、必要物品の買い物代行や急な通院の支援などその時々必要とされるニーズに対応できるように心がけている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でほとんどの外出が制限され、ホームへのボランティアなどもなくなり地域資源の活用はほとんどできていない状況です。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人やご家族に希望を聞いているが現在はほとんどの入居者が隣接する協力医療機関を主治医としている。	事業所では、家族等の協力を得つつ、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。看護職員を配置し、毎日、利用者の体調管理に努め、全職員で記録を共有している。緊急時に、24時間対応可能な状況を整備し、適切な医療の受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しているが常勤ではないため、出勤時に受診の付き添いをしている。看護師不在の日は医療連携をしている病院（隣接する母体）の看護師に状況を伝え指示を仰いでいる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの状態を情報提供している。主治医や看護師との情報交換、相談を行い、状況把握に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様が重度化した場合における対応の指針を作成し、契約時に説明を行い同意を得ている。ご本人の気持ちを大切に、ご家族と話し合い、ご本人が安心して終末期を迎えられるよう、事業所としての方針を示している。	事業所では、入居時の段階で、終末期における事業所の方針について、利用者や家族等に説明している。利用者の心身状況の変化に応じて、方針を共有している。併設の医療機関と連携し、勉強会を行ったり、介助方法等について段階ごとに話しあったりして、チームで支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生時には、隣接している協力医療機関に連絡し、24時間いつでも対応してもらうことができる。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の対応マニュアルを職員個々が把握し、緊急時に備えている。定期的に避難訓練を行っている。	年2回、消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。併設施設と連携し、備蓄品を整備し、炊き出し訓練を行っている。運営推進会議において、水害等が話題にあがることはあるが、他機関連携に関する協議や地域住民への協力要請を行うには至っていない。	今後は、運営推進会議を活用するなどして、地域の企業や住民へ避難時の協力について働きかけられたい。外部の人と話しあったり、訓練したりして連携を図ることで、よりスムーズな避難へ繋がることに期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の尊厳を守るということを念頭に置き、入居者個々の状態に応じた言葉かけや、プライバシーの確保に十分注意している。	職員は、利用者の人格や意見を尊重し、プライバシーを損ねない声かけや対応に努めている。日ごろの支援のなかでも、利用者一人ひとりの自己決定を尊重するよう心がけている。日ごろから、支援の振り返りを行ったり、事業所内で勉強会を行ったりして、職員間での意識の向上に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示ができる入居者には、なるべく希望に沿えるようにしている。意思表示ができない入居者は、例えば着替えの際に服をいくつか見せ選んでもらったり、なるべく自己決定ができるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者ひとり一人の生活リズムを把握し、可能な限り本人のペースで生活できるよう配慮している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた着衣や、希望に応じて化粧水なども購入する支援を行っている。定期的に地元の理容師さんが来訪し散髪をしてくれている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	隣接する病院で調理されたものを運び、盛り付けと刻みなどの対応を行っている。	事業所では、食事に関して、盛り付けや利用者の体調に応じた工夫を行っている。利用者には、机拭き等を担ってもらい、心身の状態に応じて力を発揮できるよう支援している。たこ焼きや牛乳プリン等、利用者とともにおやつづくりを行い、食事を楽しむことができるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個々の状態に合わせた形態で提供している。食事、水分摂取量の少ない入居者は、職員間で情報を共有している。また、必要に応じて、トロミ剤、栄養補助食品を活用している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後には声掛けして口腔ケアを行っている。声掛けだけではできない入居者もおり状況に応じて介助をしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて一人一人の排泄パターンを把握し、適宜声かけ・誘導をしている。	職員は、排泄チェックシートにより、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。本人の自尊心を尊重し、さり気ない声かけや支援に努めている。トイレの場所がわかりやすいよう工夫し、自立に向けた支援を行っている。支援や誘導方法について掲示し、支援の共有化を図っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表でチェックを行い、水分補給や運動を促す等の便秘予防に取り組んでいる。それでも排便が見られないときは、医師の指示のもと下剤の服用を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回は入浴するようにしているが、拒否があれば時間帯を変えたり、日をずらしたりして入浴につなげ、清潔を保持するようにしている。	事業所では、少なくとも週2回の入浴を支援している。浴室内は木を使用し、木の温もりを感じながら入浴を楽しむことができるよう工夫している。職員は、利用者の心身状況に応じて、安心して入浴することができるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべくホールで過ごしてもらい体操やレクリエーション等に参加するよう声かけしている。しかし無理強いせず、自室で休みたいと言えれば自由にしてもらっている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用、用法等は、各自のファイルに薬情を綴じ職員がいつでも確認できるようにしている。服薬介助時には名前日付を確認し、飲み込みまで確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯ものたたみや、モップ掛けなど入居者の状態に合わせて役割を持ってもらっている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ以前は外出の機会も多くあったが、今は病院受診以外は外出はしていない。	事業所では、日ごろから、近隣の散歩に出かけている。車いすを活用して外出するなど、いきいきと過ごすことができるよう支援している。通院時には、家族の協力を得て、ドライブを楽しむなど、工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ以前は、外出時に職員と一緒に買い物を楽しむ機会もあったが、今は外出の機会もなく買い物はできていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を所持し、自由に家族と連絡を取ったりしている入居者様も何人かいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が快適に過ごせるよう、掃除や空調管理を行っている。また、季節感を感じられる壁飾りを職員と入居者が一緒に作り、共用スペースに飾っている。	事業所は、県産の木造建築となっている。共用空間は、明るさや清潔感、木の香り等で利用者が落ち着く空間となるよう工夫している。利用者と一緒に作成した季節の作品を掲示し、季節感に配慮している。量のスペースやソファの設置など、利用者が思いおもいの場所で過ごすことができる空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き、入居者同士や職員も交え、いつでもくつろいだり、談笑したり、休息できるよう環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご本人やご家族と相談して馴染みの物やテレビ等を持ち込んでもらい、写真を飾ったり、好きなものを置いたりして居心地よく過ごせるようにしている。	事業所では、利用者が自宅と変わりなく生活できるよう、馴染みの家具や写真等を持ち込んでもらっている。居室では、利用者が家族等と電話で話をするなど、気兼ねなく過ごすことができるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	了解を得て居室の入り口に表札を掲げたり、トイレの入り口を分かりやすく表示して、自立した生活が送れるよう支援している。		